HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

How is degenerative lumbar scoliosis associated with spinopelvic and lower-extremity alignments in elderly volunteers?

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2022-10-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Wang, Jili メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004194

論文審査の結果の要旨

腰椎変性側弯（degenerative lumbar scoliosis, DLS）は、椎間板や骨の慢性的な変性により、脊柱の回旋を伴う関節の不安定性を生じる、高齢者において頻度の高い病態である。一方で、膝関節のアライメントに異常がある場合、変形性膝関節症、さらに下肢の変形に至る可能性がある。そこで、DLS が脊椎骨盤や下肢のアライメントを含む全身アライメントと関連しているかを検証することを目的とした。

申請者らは、愛知県東栄町の 50 歳以上の住民を対象に、倫理委員会の承認を受けて 2018 年に実施した運動器健診参加者 279 人のデータを分析した。性・年齢を用いた多重ロジスティック回帰分析によるプロペンシティースコアで１：１マッチングして、DLS 群と非 DLS 群を抽出して比較を行った。

分析対象者全体での DLS 有病率は 28.7%であった。プロペンシティースコアをマッチングした結果でみると、DLS 群は非 DLS 群と比較して、矢状面パラメータである C2-sagittal vertical axis（矢状面における第 2 頸椎から下ろした垂線と仙骨との距離）、T1 pelvic angle（第 1 胸椎と大腿骨頭中心との矢状面方向のなす角）、pelvic incidence（骨盤傾斜:骨盤固有の角度）、pelvic shift、pelvic incidence minus lumbar lordosis（骨盤傾斜に対する腰椎前弯との差）、また冠状面パラメータである Cobb 角、L4 傾斜が有意に高かった。しかしながら、下肢パラメータ、health-related quality of life (HRQOL)、痛みスコアでは有意な差は見られなかった。HRQOL は、DLS そのものでは低下せず、矢状面脊椎骨盤アライメントの異常があると影響を受けると考えられた。

審査委員会では、DLS について下肢を含めた全身アライメントを検討し、DLS と下肢のアライメントとの関連が低いことを世界で初めて評価したこと、また HRQOL への影響が小さいことを明らかにしたことを高く評価した。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者　　主査　尾島　俊之

副査　五島　聡　　副査　山内　克哉